

事業名	活力ある山村づくり事業費	財務コード (事業)	426001
-----	--------------	---------------	--------

細事業名	「森と湖に親しむつどい」開催費
------	-----------------

担当部課室	森林環境 部 森林整備 課 森林計画 担当 (内線)	6155
-------	----------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 S62 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 一般県民	その対象をどのような状態にして ダムや河川、森林等が果たす役割について関心が高まっている	結果、何に結びつけるのか ダムや河川、森林等の重要性及び自然環境への理解
	<p>事業の内容 ※主に 23年度</p> <p>○森と湖に親しむつどいの開催 ・昭和62年度から毎年、7月21日から31日までの「森と湖に親しむ旬間」に、県内の管理ダムを順番に会場として、各種イベント(巡視用ボートによるダム湖見学、ダム地下探検、木工教室、森林散策など)を年1回開催している。 ・平成23年度には、荒川ダム管理事務所において開催し、ボート乗船、ダム地下探検、木工教室、特産品販売等を実施した。</p>		
根拠法令等	河川法第9条、「森と湖に親しむ旬間」の開催について(国道交通省水管理・国土保全局長、林野庁長官通知)、「森と湖に親しむ旬間」実施要綱		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 イベント参加人数	820名 (塩川ダム)	1020名 (荒川ダム)	500名 (荒川ダム)	1800名 (広瀬ダム)	650名 (深城ダム)	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に設定 データの出典等 過去の実績値(主催者発表)
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	49.0 %				
成果指標 成果指標達成率 (実績値/目標値)						成果指標 目標設定の考え方 データの出典等
					%	
決算額、予算額 (千円) うち一財額	146		287	287	287	成果指標によらない成果
所要時間(直接分)	39 時間		39 時間	39 時間	39 時間	イベント参加者に対して行った独自のアンケート結果によると、イベントへの参加を通して、ダムや河川等の重要性及び自然の大切さが理解できたとの意見が多く寄せられている。
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間	
所要時間計	39 時間		39 時間	39 時間	39 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	79		79	79	79	

III これまでの事業の見直し・改善状況

なし

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合に記入すること
c	b	会場となった管理ダムにおいて、毎年度計画どおりにイベントを開催している。 平成23年度も例年どおり開催したが、天候不順等の理由により参加人数の減を余儀なくされた。このため、平成23年度の活動指標達成率は49%となったが、平成22年度は見込値920名に対し実績値820名(89%)、平成21年度は見込値600名に対し実績値650名(108%)となっており、平成23年度も天候の影響がなければ同程度の達成率であったと考えられることから、予定どおりの活動量があると判断する。

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
	b	参加者のアンケートによると各種イベントへの参加を通して、ダムや河川、森林等の役割及び重要性が理解できたとの意見が多く寄せられており、意図した成果をほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
有	これまで、県土整備部治水課をはじめとする関係機関(国土交通省、林野庁、市町村、共同事業者等)と緊密に連携して事業の開催およびその目的をPRしてきている。 今後さらに来場者を増やし、普及啓発の機会を拡大していくため、ポスター・リーフレットの新規配布先やその他の周知方法などを検討していく。	m

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	新しい広報の方法として、県のフェイスブックやツイッターでの広報を計画する。また、ポスター・リーフレットの新規配布先について、これまで配付していなかったところ(例えば、開催ダム付近以外の市町村や小学校など。)への配付を計画する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。